

# 令和6年度学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月25日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月10日実施)	成果と課題	改善方策等
教育課程 学習指導	①自ら課題を設定し、その解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る。	①新教育課程に必要な整備、措置を講じて展開するとともに、ICTの活用により生徒の多様な学びを支援する。	①新教育課程について教科から意見を聴取し、改善の有無を検討する。一人一台端末の活用について相談体制を整備する。	①新教育課程について、教科の意見聴取、改善の検討が進められたか。一人一台端末活用の相談体制は整備できたか。	①新教育課程に関する教科からの意見聴取に着手した。一人一台端末の活用に向けた相談体制の整備は達成した。来年度の推奨端末選定を公正に実施した。	①新教育課程については各教科の意見、大学入試状況などを踏まえて今後検討する。校内のICT機器については履行確認手順のマニュアルを作成し、事故防止に努める。	・具体的な方策は目標実現の具体的な内容を書き表すべきだ。 ・総合的な探究の時間をしっかりとやれば取組の評価は高まる。 ・ICT活用や学びの実現は手段が目的にならぬようしっかりとした目標を持つ。	①新教育課程が全面展開され、問題や課題の洗い出しが可能となった。当該グループで教科からの意見聴取等を始めている。保存機器は着実に確認を行う工夫を必要である。	①新教育課程実施に係る評価を行い、必要に応じて修正、見直しを行う。ICT機器の履行確認が着実に進められるようマニュアル等の整備に努める。
	②グローバル化が進む社会で広い視野を持って協働して課題を解決できる生徒の育成を図る。	②国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の実施と教育活動の充実に取り組む。	②授業改善について、教科で達成すべき目標を設定し、改善を図る。ICTの利活用による教育活動の充実に向け、教科会を通じて活用の報告や研修を行い、共有を図る。	②授業改善に向けて教科ごとに達成すべき目標を設定し、改善を進められたか。ICT利活用に向けて教科会の場は活用されたか。	②生徒による授業評価の結果を受けて、教科会を行って教科ごとに達成すべき目標を設定することができた。ICTの利活用についての情報共有の場として、教科会を活用することができた。	②取組の継続であったり、学年・教科・世代の枠を超えて構成するグループ単位で授業改善に取り組む、そこで得られた成果や課題等を学校全体で共有する。	・国際交流の仕事で、困っている外国人を世話している。海外に目を向けるのも大事だが、国内、地域に目を向けて課題を見つけ、考えるのも重要だ。 ・子供たちの学びの様子を間近で見られる機会がほしい。	②授業改善に向けて教科単位で取り組む体制を固めることができた。取組の方向性を示す必要が関係者から指摘された。機器活用の働きかけを工夫する。	②教科や総合的な探究の時間の指導にあたり実現させたい学びを再確認し、授業改善の目標とする。ICTの利活用促進に向け、共有化等の工夫を図る。
生徒指導 ・支援	①豊かな人間性や主体性、指導的役割が果たせる人格の育成を図る。	①生徒が自らの目標達成に向けて活動し、幅広いコミュニケーションを通じた活動が実現するよう、生徒会行事や委員会、部活動を支援する。	①生徒が同期や先輩、後輩幅広いコミュニケーションを通じて活動が行えるよう支援する。特に組織が委員長や部長を中心に運営されるよう支援に努める。	①生徒は自らの目標を設定し、そのための活動を行っていたか。生徒は積極的にコミュニケーションを取ろうとしていたか。組織は委員長や部長を中心に運営されていたか。	①委員会や部活動などが生徒主体で運営されていた。また、生徒は同期や先輩、後輩とのコミュニケーションを通じて伝統を引き継ぎ、顧問の支援を得ながら課題改善に取り組んでいた。	①生徒の主体的な活動が深まり、活動内容の質が高まるよう支援工夫する。委員会や部活動などを率いる生徒を中心に授業や学校行事でリーダーシップを発揮させ、社会生活での応用・視察に働きかけを増やす。	・生徒の頑張る姿を応援したいが、どこで何か行われているかわからない。活動の情報提供をしてほしい。 ・ブッシュ型面接の資料もいただきたいが、こういう働きかけがきちんとできればすごくよいと思う。	①生徒会活動や委員会、部活動では生徒主体の運営が定着しつつある。生徒会や幅広いコミュニケーションと顧問の支援を通じて伝統の継承と課題の改善に取り組んでいた。	①生徒による主体的な活動の維持させつつ、活動内容の質をさらに高め、生徒がリーダーシップを身につけ、社会生活での応用も図れるよう支援を努める。活動の情報を積極的に提供する。
	②生徒一人ひとりの適切な理解に基づく生徒支援体制と教育・健康相談の充実を図る。	②適切な生徒理解に向けて、校内の支援体制を整備する。生徒が安心して学校生活を送れるよう支援する。	②SC、SSW、職員間で適切な連携が取れるよう、教育相談コーナーやカウンセラーを中心に情報共有に努める。SSWと協力し、関係機関との連携を図る。かながわ子どもサポートドックを有効活用する。	②必要な生徒情報をSC、SSW、職員間で共有し、適切な支援が行われたか。SSWとの協力関係の構築ができたか。かながわ子どもサポートドックの有効活用は図られたか。	②SCとSSWの勤務日程を月1回合わせることで適切な情報共有ができた。サポートドックについて、ブッシュ型面接を通じて担当生徒と向き合う時間が増えるなど、有効活用することができた。	②SCとSSW、職員間の共有を密にする。SSWと生徒との関わりが増えるよう工夫を図る。サポートドックでSC・SSWが気になった生徒について担任とコミュニケーションを取れるよう工夫を図る。	②2年目に入ったサポートドックをSCやSSWとの情報共有を通じて活用できた。情報共有のさらなる工夫とSSWの活用拡大が課題である。	②SC、SSWと職員間での情報共有を徹底し、適切な支援が行えるよう協力体制を整える。SSWの活用が進むよう、SCとの業務分担を工夫し、生徒の関わりが増えるようにする。	

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月25日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月10日実施)	成果と課題	改善方策等
進路指導・支援	①キャリア観の育成を通じて生徒自らが進路を開拓選択する力を培うとともに、第一希望の実現に向けた指導、支援を充実させる。	①3年間を見通した進路指導計画に則り、将来を見据えたキャリア観の育成と組織的な進路指導を進める。各種の手立てを実践することにより、生徒が自ら希望する進路を見出させ、その希望する進路を実現させる。	①卒業生の話を聞く会や外部講師を用いた各種講演会などによりキャリア教育の充実を図る。計画的・組織的な進路指導実践していく。ハイレベルな学習スキルを養い、応用力の育成を図るなどハイゼミ活用によるその充実を図る。夏のスタディショップの充実を図る。	①年度末に各学年で行う進路指導の満足度や必要な力が身に付いたかを問う調査で、各回答が85%を超えたか。ハイゼミの充実は図れたか。スタディショップは生徒にとって魅力的なものになっていたか。	①生徒は各種講演会への参加などを通じてキャリア観の育成を図ることができた。3年間を見通した進路指導計画に基づき各学年では計画的・組織的な進路指導を実践した。ハイゼミや夏のスタディショップについて、生徒の現状や参加状況分析した。	①来年度のハイゼミと夏のスタディショップについて、内容の整理や時期の変更、また国数英の週末課題講座の新設などで制度の見直しを図り、より充実したものにする。	・ハイゼミとスタディショップについて、中学でも放課後の講習を設定するが参加者が少ない。魅力的なことをやってみなければならぬ。	①キャリア観の育成に向けた取組や組織的な進路指導の成果が好調な進学実績に現れた。ハイゼミとスタディショップの現状分析から、生徒が主体的に手の回らない現状がつかめた。	①ハイゼミとスタディショップについて、高い進路希望とその実現支援を目指して、内容の整理や時期の変更等の制度変更を行う。キャリア観育成に係る取組についても時期を早めるなどの対応を行う。
地域等との協働	①PTAや同窓会、地域との連携事業を通じて、生徒の社会参画意識を向上させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	①本校の教育活動が地域等にとっても安心で魅力的なものとなるよう、地域等の現状やニーズの把握に努め、地域等との連携事業を教育活動の一環として推進する。	①地域等との連携に向けてコロナ禍前後の変化を整理する。地域等とスムーズなコミュニケーションがとれる環境づくりに努める。現状やニーズを把握し、地域等との連携事業についてその充実を図る。	①コロナ禍前後の変化を踏まえて連携の在り方は整理できたか。地域等と定期的な意見交換は行えたか。地域等との連携事業に充実が図られたか。	①PTAとの連携では現状確認や意見収集を積極的に行った。食品販売形態を見直した文化祭も成果をあげた。来年度に向けて活動や会計の状況把握に努めた。同窓会との連携では校誌作成で同窓会の意見を反映させた。地域の連携では生徒会、部活動へ要望のあった地域の事業に積極的に参加した。地域貢献活動を通じて1学年の生徒全員が地域のための活動に取り組んだ。	①PTAや同窓会の行事参加は生徒を優先させ、開催場所の変更も検討する。125周年記念グッズ販売で両者の連携を図る。PTA予算は会員全体や学校全体への還元割合を増やす。校誌作成は同窓会と連携を図り、学校誌としての機能を充実させる。地域貢献活動は参加を希望する2、3年に対応できる取組を検討する。地域の教育資源活用観点から連携の在り方を模索する。	・中学生は、参加できる高校生によるイベントがあると刺激になり、高校を考えるきっかけになる。今後もお願いしたい。 ・地域振興の仕事で平沼高校生には活路に関わってもらっている。今後さらに関わりを深められるのかが両者には問われていると思う。 ・同窓会との連携はあるが、同窓会自身もオペレーションに課題を持つ。なんとか連携を図り学校と協力していきたい。	①地域等との連携は教育活動に欠かせない要素であり、それぞれの思いや要望を踏まえた十分な調整が必要となる。文化祭参加や校誌作成等ではPTA、同窓会と適切な連携が図られた。地域の連携には部活動を含め積極的な参加が見られた。周年行事を控えて次年度も緊密な連携と生徒の取組の工夫が求められる。	①文化祭でのPTA、同窓会との連携については生徒優先の上でも共存、共栄が図れるよう場所、内容等について十分な調整を図る。地域連携については、参加学年の拡大を模索するとともに、地域の教育資源活用観点からも今後の連携の在り方を模索する。
学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒・地域が協力して行動できる体制を整える。	①学校防災マニュアルを改善し、職員・生徒・近隣住民が協力できる体制を整備する。防災教育を充実させる。	①学校防災活動マニュアルを見直し、大規模災害を想定した訓練を実施する。防災教育を通して、生徒が安全に行動できるようにする。	①学校防災マニュアルの改善は図られたか。大規模災害を想定した実践的な訓練は行われたか。生徒は通学経路の安全について認識できたか。	①学校防災マニュアルの改善に向け、防災倉庫の備品等を整理した。DIG研修を行い、生徒に通学経路の認識を深めさせた。	①最重要となる当事者意識の育成が図られ、災害に遭遇した時に適切に行動できるよう様々な経験の場を用意して訓練や研修の工夫を図る。	・災害に備え、職員・生徒・地域が協力して行動できる体制を整えるとあるが、身体の不自由な方の避難場所、災害時の生徒の役割をしっかりと検討してほしい。 ・治安の悪化が懸念される。学校が取れる対策はないかもしれないが、注意喚起はお願いしたい。	①防災に向けた取組では備品確認やマニュアル改善が進んだ。防災教育では通学経路の危険箇所を研修を通じて認識させた。	①近隣住民との協力で、避難場所の見直しや避難誘導への対応について指摘があった。これらを踏まえたマニュアルの見直しが必要となる。
	②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。	②業務分担の偏りや長時間労働の是正に向けて職員が協力して取り組み、必要な対応を進める。	②職員は協力して部活動指導、グループ業務の均分化に努める。管理職は勤務過多の職員を把握し、是正に向けて相談、協力する。	②部活動指導、グループ業務の均分化は進んだか。勤務過多の職員へは適切な対応がとられたか。	②Teamsの諸機能を活用し、資料共有や会議時間短縮、回数削減を図った。これにより連携も高まった。施設改善で選択教室整備を行った。	②ICTや業務アシスタント活用による私費業務削減やサービス支援、ペーパーレス化を進める。教室設備の充実を図る。		②各グループでICTを活用した業務改善に取り組んだ。勤務超過職員への働きかけには行えなかった。	②業務削減、均分化に向けたグループリーダーを中心に引き続き取り組む。管理職は時間管理の意識醸成を図る。